

R2 地域協働研究（ステージI）

R02-I-15 「震災後の多様なニーズに沿える観光モデルコースの設定」

課題提案者 一般社団法人宮古観光文化交流協会

研究代表者 宮古短期大学部 大志田憲

研究チーム員 高岩将洋（宮古観光文化交流協会）宮井久男（岩手県立大学名誉教授）

<要旨>

東日本大震災以降、岩手県内における県央、県南部の観光客入込数は震災前の状態へと回復傾向ではあるが、沿岸部は教育旅行者の入込数は維持しつつも、全体として見ると依然として厳しい状況である。団体から少人数へと観光旅行形態が変化しニーズも多様化している中、若者から高齢者までに応じた、観る・食べる・体験する旅行プラン、モデルコースを発信・提供する必要があります。そのような現状を踏まえ、本学学生が主体となり、高校生、宮古市内外での観光客に対する動向調査、ニーズ等のアンケート調査を行い、その調査結果をもとに学生により宮古市を中心とした多様なニーズに沿える観光モデルコースの作成につなげていく。

1 研究の概要（背景・目的等）

東日本大震災以降、岩手県内の県央、県南部の観光客入込数は震災前の状態へと回復傾向ではあるが、沿岸部は教育旅行者の入込数は維持しつつも全体として見ると依然として厳しい状況である。観光旅行の形態は団体から個人・小グループへと多様化していることに加え、宮古室蘭間フェリーの休止、復興支援道路として三陸沿岸道路、宮古盛岡横断道路の整備といった交通状況の変化も含め、今後の宮古市を中心とした沿岸部観光の振興を考えた際には、防災ツアー等の教育旅行のみならず、多様化したニーズ、若者から高齢者までに応じた、従来よりさらに魅力ある観る・食べる・体験する旅行プラン、モデルコースを発信・提供する必要があります。このような課題を踏まえ、今後の観光客ともなり得る若い世代を対象の中心としつつ、観光意識に対するアンケートを収集、そのニーズを分析し、今後の新しい観光ルート、観光コンテンツ開発につなげていく。

2 研究の内容（方法・経過等）

以下の方法により宮古観光文化交流協会（以下、協会）と協働研究を進めた。

- ・宮古市の観光状況、課題の情報共有、意見交換
- ・宮古市、県内イベントでの観光アンケート調査
- ・県内高校生に対する観光アンケート調査
- ・アンケートの集計および分析
- ・集計結果をもとに現地調査（新型コロナウイルス感染症拡大のため、未実施）
- ・現地調査からの観光モデルコースの検討

協会を講師とした学生参加の研修会を開き、宮古地域観光の現状と課題の情報共有、意見交換を行った。その上で、一般の方々、内陸および沿岸部の高校生に、観光に関するアンケートを実施し、観光に対する意識、ニーズ等の調査を行った。アンケート結果をもとに、沿岸部観光地を現地調査し、学生グループワークにより観光モデルコースの検討を行う予

定ではあったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため、実際の観光地実地調査を行う事が出来ず、観光モデルコース検討は、資料のみでの意見交換とし、次年度以降の実施とした。

3 これまで得られた研究の成果

以下、各活動およびその結果を説明する。

(1) 宮古沿岸部の観光状況についての研修

学生と共に観光の現状把握および意見交換を行った。

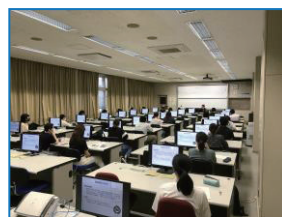


図1 宮古市観光文化交流協会による研修 令和2年8月5日

(2) 観光意識アンケート調査

観光に関するアンケートを、宮古市と県内陸部（八幡平市）でのイベントおよび沿岸部および内陸部の高校生に対して実施した。項目については、観光に対する意識や観光旅行先を決める際の重要度、同行者、SNS利用状況、協会によりリストアップされた宮古地域に関する観光素材（食、自然等）への興味とした。



図2 浄土ヶ浜まつり（宮古市）におけるアンケート調査

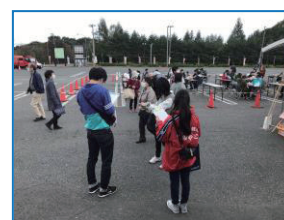


図3 山賊まつり（八幡平市）におけるアンケート調査

表1 アンケート集計数

観光イベントでの調査（一般対象）		
宮古市・浄土ヶ浜まつり	令和2年10月4日	71名
八幡平市・山賊まつり	令和2年10月10～11日	200名
10代10.0% 20代15.9% 30代21.8% 40代19.6% 50代16.2% 60代11.1% 70代5.5%		計271名
※世代割合は小数点以下第2位四捨五入		

県内高校生への調査		
沿岸部	岩手県立山田高等学校	106名
	岩手県立宮古商工高等学校	342名
内陸部	岩手県立盛岡商業高等学校	80名
	岩手県立不来方高等学校	65名
		計593名

アンケートの集計結果について、一部であるが以下に説明する。

・観光旅行先を決める際の重要度

アンケートから、高校生は「食べ物・飲食店」「宿泊施設」「費用等の適切さ」が上位となっている。また、一般(20代以上)については、「食べ物・飲食店」「自然景観」「宿泊施設」となっている。さらに細かく見てみると、同じ高校生でも内陸部と沿岸部を比較した場合、内陸では「自然景観」「街並み文化風土」「観光文化施設」が沿岸部と比較して高く、沿岸部では「交通の便」が高い結果がでており有意差が認められた。男性は「自然景観」、女性は「お土産」にやや強い傾向が見られた。一般についても、年代別で見ると、30代は「レジャー施設」「食べ物・飲食店」「宿泊施設」が高く、これは他のアンケート項目にある「誰と行きたいか?」で「子ども」の割合が他の年代よりも高く、いわゆる子育て世代の要望であることも想定される。

・興味があるもの（食）

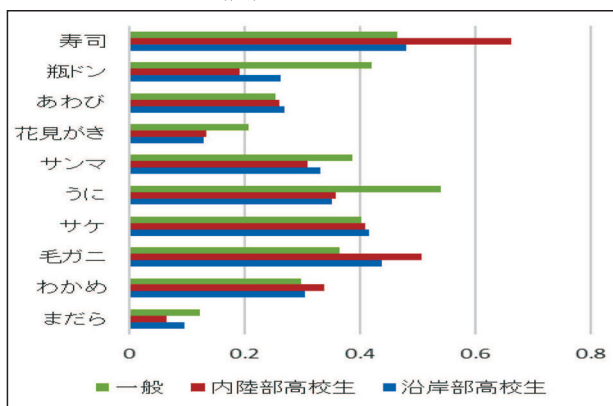


図4 興味があるもの(食)複数回答

図4は宮古地域の海産物およびそれを利用した食べ物についての興味を表した結果である。比較のため高校生は内陸部と沿岸部にかけてグラフを作成している。一般は「うに」「瓶ドン」に興味度が高いことがわかる一方で、高校生には「瓶ドン」への興味度が低く、新しいご当地グルメでもある「瓶ドン」はInstagram等の見た目や体験の要素も含むことから、より若い世代へのPRも必要と考えられる。

・興味があるもの（自然）

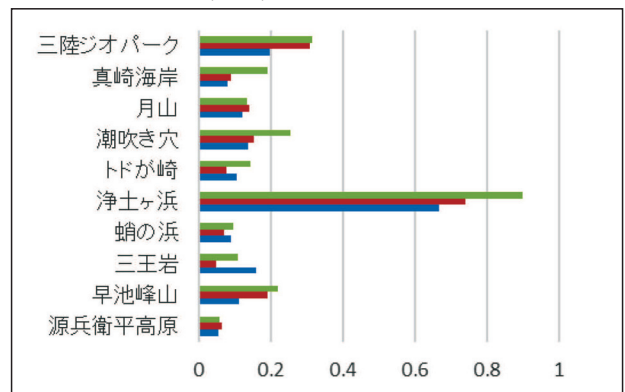


図5 興味があるもの(自然)複数回答

図5は宮古地域の自然に対する興味のグラフ化である。浄土ヶ浜が高い値となっており他を大きく離しているが、三陸ジオパークについて一般と内陸部高校生に比較的高い結果が出ており、今後観光ルート、コンテンツの軸となるひとつとして活用できる可能性がある。

(3) グループワークによる観光モデルコース検討

調査結果をもとに、学生のグループワークによる観光モデルコース検討を行った。実施調査ができなかったため、実際の現場を見たとえでの検討ではなく、資料のみでのブレインストーミングではあったが、様々な顧客セグメントに対して、テーマ、設定背景、企画概要等を含む観光ルートを作成し、協会と意見交換を行った。



図6 学生グループワークによる観光ルート検討
令和3年2月2日

4 今後の具体的な展開

R2年度においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、アンケート分析からの現地調査ができなかったが、今後はコロナの状況も踏まえながら実地調査を主体とした観光ルート作成および観光コンテンツ掘り起こしの検討を行う。

5 その他（参考文献・謝辞等）

【参考文献】

- ・令和元年度版岩手県観光統計概要，岩手県商工労働観光部 観光・プロモーション室，2020年8月。
- ・平成30年度三陸地域における観光マーケティング調査結果の概要，(公財)さんりく基金三陸DMOセンター，2019年11月。

【謝辞】

アンケート調査にご協力いただきました一般社団法人八幡平市観光協会並びに県内各高等学校に感謝申し上げます。